



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

— 2017 年度 分野別研修事業 —

(終了時評価 - 2018 年 4 月)

個別技能向上（実習）コース〔実習訓練グループ〕

研修生受入の概要

研修コース名	個別技能向上（実習）コース〔実習訓練グループ〕
参加国及び参加人数	1 か国 2 名（中華人民共和国）
研修コース実施の経緯と背景	<p>1970 年代からの各国の 200 海里経済水域の導入に伴い、我が国漁業者は関係沿岸国との交渉により入漁を確保することを余儀なくされ、海外漁業協力と漁場の確保を一体的に推進するという立場から、現地法人への投資等により関係沿岸国の漁業の開発振興に協力してきている。これら現地法人等の育成には漁業生産や製造加工等にかかる技術移転が不可欠であり、現地法人等が時々必要とする技術力の向上を目的として 1974 年度から開設しているコースである。</p> <p>近年は、特に食品の安全性が問題視されており、我が国の水産会社の海外合弁あるいは技術提携企業においても技術者や製造員の水産製品の品質管理にかかる技術力の向上並びに知識の習得は喫緊の課題になっていることから、水産物の品質管理等加工分野の研修生が大部分を占めている。</p>
研修期間及び研修場所	<p>2017 年 8 月 30 日～12 月 4 日（93 日間）</p> <p>一般研修： 8 月 30 日～9 月 28 日（30 日間） （研修場所：幕張国際研修センター）</p> <p>技術研修： 9 月 29 日～11 月 30 日（63 日間） （研修場所：推薦会社の研修センター、工場、事業所、事務所等）</p>
上位目標	関係途上国の水産加工技術のレベルが向上する
研修目標	良質な生産現場の技術者等が育成される
成 果	水産製造の製造員、技術者等の技術力が向上する

活 動	1) 一般研修：学科講義、日本語基礎会話 我が国の水産業の紹介（H A C C P、水産物加工、品質管理） 2) 技術研修：学科講義・実技研修 製造管理技術（加工作業、商品開発等） 品質管理技術（適正製造基準（GMP）座学、分析検査室管理等）
投 入	財団側 1) 一般研修 人的投入（講師等）：講師 4 名 （日本語講師 2 名、水産講師 2 名） 物的投入（研修資材等）：日本語テキスト、水産専門講義テキスト、プロジェクター、パソコン等 2) 技術研修 人的投入（指導員等）：各工場、事業所、研修センターに各 1 名 物的投入（研修資材等）：工場、事業所、研修センターの装備、機器類を使用 3) 事業費 5 百万円 受入対象国側 投入なし

評 価 事 項

◆ 妥 当 性

1. 研修実施計画は相手国のニーズに合致していたか

我が国の水産会社の海外合弁あるいは技術提携企業においては、技術者や製造員の技術力のレベルアップが課題となっており、先進的な水産技術に触れることが出来る我が国での研修ニーズが大きい。

近年、特に食品の安全性が問題視されており、水産製品の品質管理技術に対する研修ニーズは大きい。

また、中華人民共和国（以下「中国」という。）において品質管理の面での技術力の向上は喫緊の課題となっており、本研修コースの研修内容は相手国のニーズに合致していた。

2. 研修実施計画の妥当性（一般研修・技術研修）

研修内容は、水産製造分野の技術力を向上させるものであり、妥当であった。

3. 研修実施計画は、一般研修期間及び技術研修期間中の研修生活の実態を考慮して作成されたか

一般研修では、日常生活及び技術研修に必要な基礎会話の習得を目的として日本語研修を実施するとともに、技術研修では、それぞれの研修分野に合わせた実技研修を

実施し、いずれも指導員、研修監理員を適切に配置するなど研修生活の実態を考慮した実施計画を作成した。

4. その他

特になし。

◆ 効 率 性

1. 講師、研修施設、研修資機材等は計画通りに投入され、期待される成果を上げたか

一般研修は、日本語専門講師を2名配置し、日本語研修を行った。水産専門講義においても各科目に1名の経験豊富な講師を配置した。技術研修では、実技研修先の我が国水産系企業や団体の工場等において専任の指導員を配置した。

これら講師・指導員の配置に加え、研修教材、研修資機材、研修施設は計画通りに投入され、研修生の技術力が向上した。

2. 研修内容、水準、技術指導方法は適切に実施されていたか

各カリキュラムの研修日数、講義、実習の内容と水準並びに指導方法は、これまでの経験を踏まえ、適切に計画され、実施された。

3. その他（研修の効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

◆ 有 効 性

1. 研修目標の達成度

研修目標： 良質な生産現場の技術者等が育成される

各研修生は、海外合弁企業等において研修分野の職務経験を既に有しており、本研修でさらなる知識と技術を習得することにより、それぞれの資質と技術力をさらに高め、研修目標は達成された。

2. その他（研修生の研修意欲・研修満足度等及び職場における社会・文化、制度上の環境等外部要因が、研修目標の達成に与えた影響等）

特になし。

◆ インパクト

1. 上位目標の達成に対する研修目標の達成の効果は、どの程度見込まれるか

本研修により、海外合弁企業等の生産現場を担う人材の育成が実現されたことで研修生の所属する合弁企業等での水産関連技術レベルの向上が図られた。しかしながら、関係沿岸国の水産加工技術レベル全体の底上げに与えるインパクトは限定的である。

2. 研修事業は、政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果又は負の影響が見込まれるか

加工作業、品質検査等について学んだことにより、水産製品に対する安全・安心な品質管理技術の改善に効果が見込まれ、国際スタンダードの導入が図られる。

3. その他（計画当初予見できなかった効果又は負の影響が見込まれるか等）

特になし。

◆ 持続性

1. 研修生は帰国後、研修の成果を有効に活用している（できる見込み）か

研修生の技術力の向上は、所属する合弁企業等の生産現場にとって貴重なものであり、それぞれの職場で有効に活用される。

2. その他（相手国及び研修生の自立発展に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上

.....